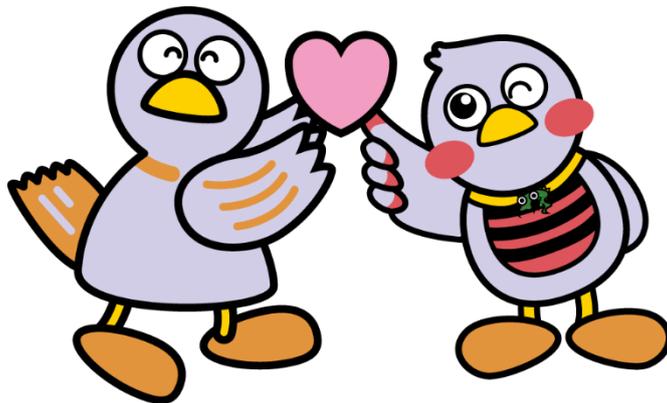


男女平等意識を高める校内研修資料の活用に関する 検証報告書



埼玉県マスコット
「コバトン&さいたまっち」

令和7年2月

男女平等教育推進委員会

埼玉県教育局県立学校部人権教育課

<目 次>

No	内 容	ページ
1	はじめに 1.1 検証実施の背景と目的 1.2 検証の実施方法	2
2	「男女平等意識を高める 校内研修資料」の概要 2.1 「男女平等意識を高める 校内研修資料」について 2.2 「男女平等意識を高める 校内研修資料」の内容 2.3 研修例の概要	3
3	研修実践状況の詳細 3.1 研修の実施状況 3.2 研修実施後のアンケート結果	5
4	研修の成果と課題 4.1 研修の成果 4.2 研修の課題	9
5	改善策の提案	11
6	参考資料	13

1 はじめに

1.1 検証実施の背景と目的

埼玉県人権教育実施方針（令和4年3月）では、「女性に対する人々の意識や行動、社会の慣習・慣行の中にある差別意識や男女の固定的な性別役割分担意識を見直し、女性の人権が尊重されるとともに、男女平等観の形成を図るため男女共同参画の視点に立った教育を推進する」としている。

また、埼玉県が策定した埼玉県男女共同参画基本計画（令和4年度～令和8年度）では、「学校教育は、男女共同参画の意識を育てる重要な場であることから、人権尊重を基盤とした男女平等観の形成を促進するため、男女共同参画の視点に立った教育を推進します」としている。

これを踏まえ、令和4年度の男女平等教育推進委員会では、学校教育の様々な場面での性別に基づく固定的な役割分担意識や性差に関する無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の見直しと、教職員の意識啓発及び研修方法について研究し、平成31年3月に作成した「男女平等意識を高める校内研修資料」の更新を行った。

そして、令和6年度の男女平等教育推進委員会では、「男女平等意識を高める校内研修資料」を活用した研修会の成果を検証し、効果的な研修方法や学校での男女平等教育を推進するための方策等について提案を行うこととした。

1.2 検証の実施方法

委員の所属校において、「男女平等意識を高める校内研修資料」（令和5年3月）の研修例（2）または研修例（3）を活用した校内研修を行い、研修参加者へのアンケートをもとに研修の成果等について検証を実施した。

2 「男女平等意識を高める校内研修資料」の概要

2.1 「男女平等意識を高める校内研修資料」について

「男女平等意識を高める校内研修資料」は、平成31年3月に学校において男女平等教育が推進されることを目的に作成した。令和4年度の男女平等教育推進委員会において、学校の教育活動の様々な場面での性別に基づく固定的な役割分担意識や性差に関する無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を見直すため、教職員の意識啓発及び研修方法について研究を進め、データの更新や、校内研修例等を掲載した。

2.2 「男女平等意識を高める校内研修資料」の内容

No	内容	ページ
1	男女共同参画の視点に立った表現について	1
2	無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について	2
3	日本の男女共同参画の国際比較	3
4	埼玉県の男女共同参画の現状は	4
5	男女共同参画社会とは	5
6	なぜ、男女共同参画社会の実現が必要なのか	6
7	なぜ、学校で男女平等教育を推進する必要があるのか	8
8	男女平等教育の具体的実践について	9
9	キャリア教育との関係について	10
10	関連する内容	12
	参考資料	13
	研修例（1）	15
	研修例（2）	17
	研修例（3）	18

2.3 研修例の概要

研修例（1） 研修時間：40分×3回（年間3回実施）

<p>①知る（4月当初）</p> <ol style="list-style-type: none">1 今の自分を知る（自己分析）2 アンコンシャス・バイアスについて理解し、自校における改善点や意識するとよいことを考える
<p>②深める（夏季休業中）</p> <ol style="list-style-type: none">1 1学期の振り返り2 認識を深める3 振り返りと2学期に取り組むことを確認する
<p>③実行する（1月頃）</p> <ol style="list-style-type: none">1 2学期の振り返り2 学校の実態を知る3 振り返りと3学期・来年度に取り組むことを確認する

研修例（2） 研修時間：40分

<ol style="list-style-type: none">1 自分の意識について考える2 アンコンシャス・バイアスについて理解する3 男女平等について考える

研修例（3） 研修時間：60分

<ol style="list-style-type: none">1 男女平等共同参画の視点に立った表現について2 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について3 日本の男女共同参画の国際比較4 埼玉県の男女共同参画の現状5 なぜ男女共同参画社会の実現が必要なのか6 なぜ学校で男女平等教育を推進する必要があるのか7 男女平等教育の具体的実践について
--

3 研修実施状況の詳細

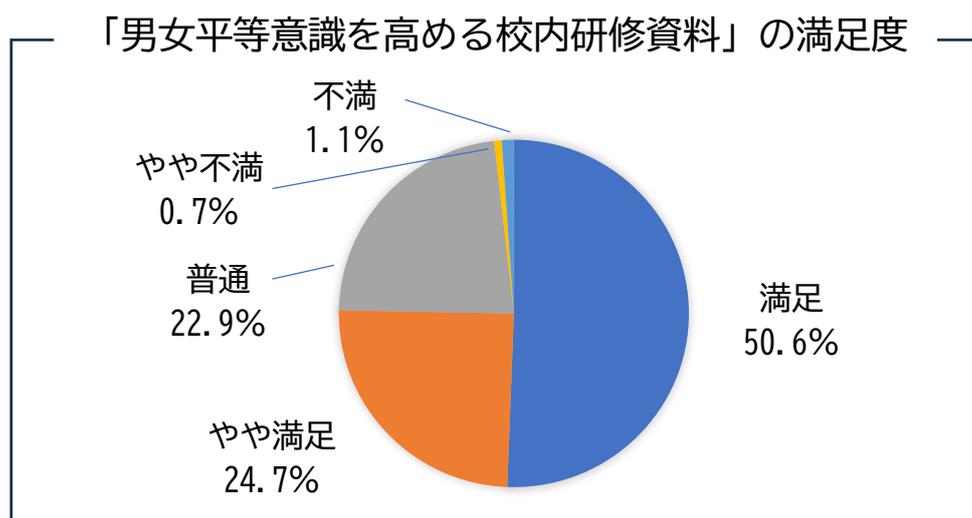
3.1 研修の実施状況

No	校 種	日 時	参加者数	実施研修例
1	小学校①	8月22日(木) 10:30~12:00	19	(2)
2	小学校②	8月23日(金) 9:30~10:30	14	(2)
3	小学校③	8月23日(金) 14:35~15:35	24	(3)
4	小学校④	9月18日(水) 14:30~15:50	14	(2)
5	中学校①	9月 9日(月) 15:45~16:30	16	(2)
6	中学校②	9月 9日(月) 15:45~16:30	22	(2)
7	中学校③	9月30日(月) 15:30~16:10	20	(2)
8	県立学校①	7月25日(木) 9:20~10:00	110	(2)
9	県立学校②	8月23日(金) 11:00~11:40	38	(2)
10	県立学校③	9月 3日(火) 14:00~14:40	34	(2)
11	県立学校④	9月19日(木) 15:50~16:30	31	(2)
合計	11校		342人	(2) 10校 (3) 1校

3.2 研修実施後のアンケート結果

【質問1】

「男女平等意識を高める校内研修資料」の内容について満足度を5段階で評価してください。また、評価の理由がありましたら記入してください。



(評価の理由)

- ①男女平等への意識と理解の深化
 - ・男女平等意識を再確認することができた。
 - ・男女平等意識を高めるための教育環境の整備が必要だと感じた。
- ②自身の無意識やバイアスの認識
 - ・自分のアンコンシャス・バイアスを自覚することができた。
 - ・無意識に持っている差別感情を認識し、意識的に良い振る舞いをするものの重要性を理解することができた。
- ③グループ協議について
 - ・他の教職員の考えを知ることが無かったので、意見交換や突っ込んだ話し合いができたことが有意義だった。
 - ・他の教職員の意見を聞くことで、自分以外の視点からの考え方を知ることができた。
 - ・もっと時間をとって意見交換ができればよかった。
- ④研修や資料の評価
 - ・資料がとても見やすかった。実際の教育現場で起こりうること等の説明がわかりやすかった。
 - ・簡潔にわかりやすく、無意識に男女の意識に差があることに気づけた。

【質問2】

学校において、男女平等の実現のために必要なのはどのようなことだと思いますか。(複数回答可)

(回答数が多い順)

- ・性別に関係なく「～さん」という呼び方の徹底(180)
- ・男女平等に関する教員の意識改革(177)
- ・男女混合名簿の実施(175)
- ・性別にとらわれない進路指導の実施(174)
- ・男女平等に関する管理職の意識改革(155)
- ・保護者に対する性別にとらわれない教育の啓発(150)
- ・男女平等やセクシャル・ハラスメント、性等に関する相談窓口の設置
(145)
- ・男女平等に関する教育についての校内研修の実施(135)
- ・学校が発行する「たより」、「広報誌」等における男女平等に関する表現の留意(134)
- ・集会等の女子・男子の並び方の見直し(121)
- ・教科書における女子と男子の描かれ方の点検(117)
- ・男女平等に関する教育についての担当の設置(75)

アンケート自由記述より

①男女平等と区別の認識

- ・性別から差別につながるのは良くないが、学校では区別が必要な場合がある。差別と区別の違いが難しい。
- ・学校生活の中で無意識に男女を分けてしまう場面がある。
- ・男女平等も大切だが、お互いを尊重し適性を把握することも大切である。
- ・特別支援における「視覚支援を中心としたわかりやすさ」と「区別せずに提示する」ことのバランスを考える必要がある。

②アンコンシャス・バイアスについて

- ・アンコンシャス・バイアスに関して理解できた。無意識に思ってしまうことのため今後も考えを新しくしていく必要がある。
- ・無意識の思い込みが思ったよりもたくさんあることがわかった。
- ・アンコンシャス・バイアスは、指摘されないと気付かない。指摘し合える風潮が必要で、日ごろの教員間のコミュニケーションと情報共有が大切である。

③意識の変化と気づき

- ・自分の意識を知り、見直したり考えたりする必要があると感じた。
- ・無意識に性別役割分担意識を植え付けていることがあると気づいた。
- ・研修で得た意識をいかに継続していけるかが課題であるが、研修を定期的に開催する時間を確保することが難しい。

④社会全体の取組

- ・アンコンシャス・バイアスを取り除くには、社会全体で取り組む必要があると感じた。
- ・世界的に日本のジェンダー・ギャップ指数が低いことに驚いた。
- ・学校だけでなく、家庭や地域への発信も必要になると思う。

⑤具体的な取組の方向性及び改善点

- ・子供たちに無意識に差別感情を刷り込まないように日々の言動に注意を払っていく。
- ・道徳の授業などを通して子供達にも男女平等について考える機会を作っていく。
- ・男女で分けがちなので、番号などの別の方法で組分けしていく。
- ・「くん」「ちゃん」ではなく「さん」で統一していく。
- ・性別にとらわれない進路指導を行っていく。
- ・気づかないうちに男性、女性「らしさ」を意識してしまうこともあるので、生徒一人一人の「個」に目を向けていく。

■アンケート結果等のまとめ

男女平等意識を高める校内研修資料の満足度は、「満足」及び「やや満足」を合わせると合計で75.3%となっており、おおむね高い評価であった。評価の理由としては、「男女平等意識を再確認することができた」や「自分自身のアンコンシャス・バイアスに気づくことができた」などが多くみられた。また、「グループ討議を通して自分の意見との違いや新たな気づきを得ることができた」などが挙げられていた。

「学校において、男女平等の実現のために必要なのはどのようなことだと思うか」については、「性別に関係なく『～さん』という呼び方の徹底」「男女平等に関する教員の意識改革」「男女混合名簿の実施」「性別にとらわれない進路指導の実施」を参加者の過半数が選択していた。

自由記述からは、「男女平等について振り返って考えるいい機会になった」などあらためて研修を評価する意見や、「様々な場面で男女で分けがちなので、番号などの別の方法で組分けしていく」等、研修で得た知識・気づきを踏まえ、実践に結び付けていく意見が見られた。一方で、「研修を行うことは大切だし、繰り返し行えばよいが、多忙な中で研修時間を確保することが難しい」や「学校だけでなく家庭や地域への発信も必要」などの課題も指摘された。

4 研修の成果と課題

4.1 研修の成果

アンケートの結果から、「男女平等意識を高める校内研修資料」を活用した研修会は、教職員の男女平等に対する意識を高める重要な機会であることが確認された。具体的には、日常生活や教育現場で男女平等の意識を持って行動することの重要性が再確認され、無意識のバイアスがどのように影響を与えるかについて認識されていた。

また、グループ協議を通じて、男女の区別をしなくてもよい場面と区別が必要な場面を考え、対応策について活発な議論が行われていた。教職員間で異なる意見が交わされ、共通の理解や目標が形成されると同時に、お互いの視点や経験を尊重し合う姿勢を醸成していた。

研修会が、学校の実践にも反映させるきっかけとなっており、例えば、係や委員会の運営において男女別の制限を設けないことや、生徒会本部役員の性別による人数制限の廃止など、具体的な改革が行われる学校もあった。これらの取組は、学校内での男女平等意識の向上だけでなく、地域や他の学校にも影響を与え、広がりを見せると考えられる。

今後もこの研修資料を活用した校内研修を継続して実施し、さらに男女平等意識を広げていくことが期待される。

(参考：研修実施校の管理職コメント)

- ・ 男女平等教育については社会的な意識が高まってきており、教職員の意識改革が求められている。本研修会を通じてその意識を高めることができた。今後も計画的に研修を実施して、男女平等教育を推進していく。
- ・ 短時間ではあったが、非常に実りある研修となった。アンケート結果からは本校では男女平等の意識が高まっていることが分かったことも大きな収穫である。アンコンシャス・バイアスを他者（仲間）と共有し、それをどのように改善していくのか、どのように発信していくのか検討できた。今回の研修を通して学んだことを子供たちへの指導支援に繋げるとともに自然と男女平等の意識が高まり身につく方策を考えていきたい。
- ・ 教育では、女性管理職の割合が増えており活躍している。また、男女混合名簿や女子制服へのスラックスの導入も進んでいる。子供たちへ男女平等について様々な場面で大人が伝えていくことで、将来に向かっては、平等意識の高い世の中になっていくのではと考える。改めて、教育に携わるものとして意識を高め、正しい知識を子供たちへ伝えるために学ぶ必要があると感じた。

4.2 研修の課題

「男女平等意識を高める校内研修資料」を活用した研修会の有効性が確認された一方で、いくつかの課題もみられた。

①教職員一人ひとりの意識の定着について

研修会を通じて、男女平等意識の重要性やアンコンシャス・バイアスの影響について学ぶことができ、さらに、グループ協議を通じて、理論だけでなく実践的な知識を身につけることができる。しかし、時間の経過とともに研修で得た意識が薄れてしまうことが課題となる。特に、学校現場の多忙化や研修テーマの多様性により、研修時間を確保することが困難となっている。

②教育現場での実践について

研修会を通じて学んだ男女平等教育の実施やアンコンシャス・バイアスをなくしていくことについて、具体的な対応策や教育活動の実施方法を考えることが重要である。教職員には、自身が持つ意識やバイアスを認識し、それを克服するための努力が求められる。また、カリキュラムの中に、男女平等やバイアスの問題に関する内容を組み込むことも有効であり、さらに、学校全体のシステムや環境を見直し、男女平等を実現するための取組を行うことも必要である。

③保護者や地域への広がりについて

男女平等意識は、家庭環境によってバイアスがかかってしまうことがあるため、家庭での男女平等意識の向上も必要となる。例えば、家族の中での役割分担や性別に基づく期待の違いが、子供たちに影響を与える可能性があることから、家庭に向けた意識啓発も重要となる。

さらに、学校ボランティア等、子供たちと関わる地域の方たちにも男女平等意識を持ってもらうことが求められる。地域の人々が男女平等を尊重し、子供たちにも伝えることで、社会全体の意識が変わっていく。そのためには、地域との交流イベントなどを通じて、男女平等教育を広める取組が必要である。

④その他（研修資料について）

各種資料の最新データへの更新等を行っていく必要がある。

5 改善策の提案

①教職員一人ひとりの意識の定着について

教職員一人ひとりの意識の定着については、定期的に研修会を実施することが有効であるが、研修時間の確保が難しいという課題があり、負担なく取り組むことができる方策として以下の内容が考えられる。

- ・男女平等意識に関する啓発ポスターや資料を職員室内に掲示するなど教職員が男女平等について意識する機会を増やす。(掲示する内容を毎月変更することで、さらに効果的になる)
- ・学期ごとに「男女平等意識を高める校内研修資料」の1ページ目の表現チェックシートを活用した確認を実施し、研修会の代替手段とする。
- ・表現チェックシートの項目を学校の実態に合わせてアレンジするとともに、Google フォーム等のアンケート作成・管理ソフトで簡単に回答できるようにする。
- ・研修会をやりやすくするため、学年会などの少人数のグループで短時間で実施する。

②教育現場での実践について

性別に関する固定観念をなくしていくため、教育現場での実践例として以下の取組が考えられる。

- ・男子への「くん」付け、女子への「さん」付けをやめ、児童生徒に対しての敬称を「さん」で統一する。
- ・「女子は赤」「男子は黒」といった色での区別をやめるなど校内の男女表示の見直しを行う。
- ・体育の授業で整列する際に男女混合順に整列する。
※種目によっては補助のために体に触れることがあるため注意が必要
- ・生徒会や各委員会における性別規定(例：男女各1名ずつの選出)の見直しを行う。
- ・各委員会の担当教員の性別(例：〇〇委員会は男性教員が担当)を見直し、教職員の配置を柔軟に行う。
- ・キャリア教育を行う際に、地域の女性経営者を招いて講話を実施するなど地域の人材を活用し、男女平等及び男女共同参画を意識づける。

③保護者や地域への広がりについて

家庭環境によるバイアスが児童生徒の男女平等意識に影響を与えることがある。家庭や地域での男女平等意識の向上も重要であり、対応策として以下の取組が考えられる。

- ・学校だよりや学校のホームページに男女平等意識の向上に関する学校の取組を掲載し、保護者や地域への情報発信を行う。
- ・令和5年度に男女平等教育推進委員会で作成した「男女共同参画社会の実現を目指して」の学校内への掲示や保護者への配信を行う。（「6参考資料」参照）
- ・年に一度、道徳の授業参観で男女平等をテーマに取り上げ、その後の懇談会で保護者と共にテーマについて話し合いを行う。
- ・男女平等意識に関する資料や表現チェックシートを家庭に配布したり、保護者会などで男女平等に関する内容を説明したりする。
- ・女性の人権に関連して生徒向けに行っている教育講演会や人権教育講演会に保護者が参加できるようにする。
- ・学校説明会、入学許可候補者説明会などで男女平等意識の向上について学校の取組を紹介する。（提出書類の性別記載欄の撤廃など）

④その他（研修資料について）

「男女平等意識を高める校内研修資料」の内容を充実させるとともに、効果的に活用するため、以下の取組が考えられる。

- ・「男女平等意識を高める研修資料」に掲載しているデータ・資料を最新の数値等に更新する。
- ・男女平等意識を高めていくことが必要となる根拠を示すデータ・資料を追加する。
- ・パワーポイント形式の資料や、短時間で実施するためのコンパクトにまとめた資料を作成する。
- ・各校で実施している男女平等意識を高める具体的な事例や実践的な方法を資料に追加する。
- ・短時間で行えるビデオ教材（YouTube 動画）などを合わせて活用する。（「6参考資料」参照）

6

参考資料

No	資料
1	<p>男女平等教育資料「男女共同参画社会の実現をめざして」 (埼玉県教育委員会)</p> <p>※日常生活で想定される4つの場面を設定し、男女共同参画の実現について親子で話し合うための資料</p> <ul style="list-style-type: none"> • 小学校高学年用 • 中学生用 • 高校生用
2	<p>男女共同参画に関する指導案例 (埼玉県教育委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「男女共同参画について考える」 (小学校高学年・特別活動) • 「家庭内の男女共同参画とは」 (中学校・特別活動) • 「男女共同参画とは」 (高等学校・LHR等)
3	<p>男女共同参画の推進に向けた教員研修モデルプログラム (文部科学省)</p> <p>※固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) に関わる11の教育現場の身近な場面を示したイラスト動画 (1ケース2分弱～5分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ケース1～4 主な対象：小学校教員 (初期・中堅) • ケース4～7 主な対象：中学校・高校教員 (初期・中堅) • ケース8～11 主な対象：管理職・教育委員会職員 など
4	<p>第5次男女共同参画基本計画 用語解説</p>